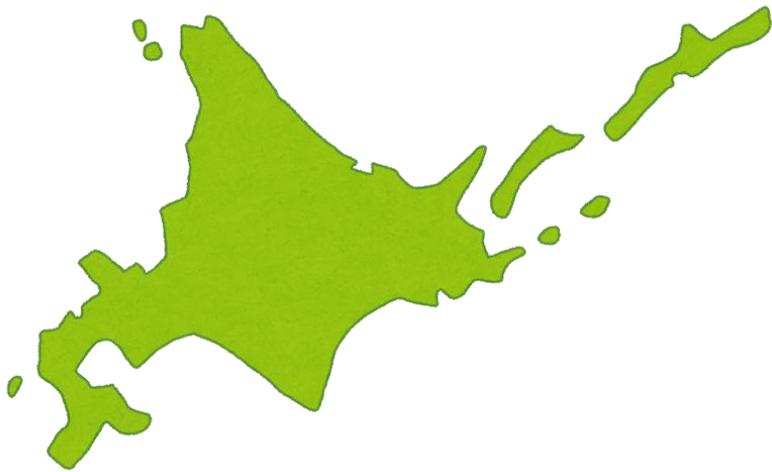
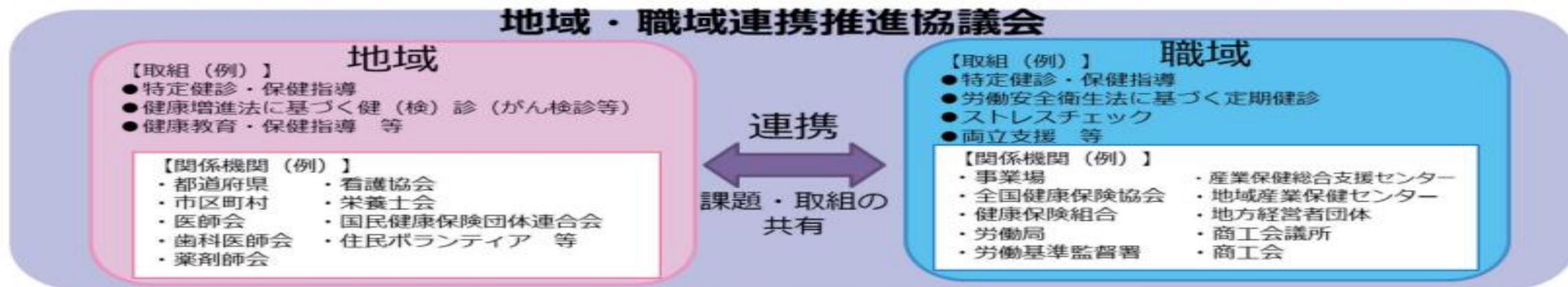


地域・職域連携推進事業 について



現状のまとめ

- ① 特定健診受診率・特定保健指導実施率は全国最下位であるが、圏域や保険者による差が大きい。
- ② 健診結果の状況は、肥満や高血圧、高血糖、肝機能低下等ほとんどの項目で、道は全国と比較し該当者が多く、圏域により特性がみられる。
- ③ 男女ともに20歳以上の喫煙率は全国と比較して高くなっている。
- ④ 1日の飲酒量2合以上の者が全国と比較し多く、特に女性が多い。
- ⑤ 20～64歳の働く世代の男女の死因1～2位は「自殺」となっており、メンタルヘルスに関する課題も大きい。



地域・職域連携のメリットの共通認識

1) 効果的・効率的な保健事業の実施

- (1) 地域及び職域が保有する健康に関する情報を共有・活用することにより、地域全体の健康課題をより明確に把握することが可能となる。
- (2) 保健サービスの量的な拡大により対象者が自分に合ったサービスを選択し、受けることができる。
- (3) 保健サービスのアプローチルート拡大に繋がり、対象者が保健サービスにアクセスしやすくなる。
- (4) 地域・職域で提供する保健サービスの方向性の一致を図ることが可能となる。

2) これまで支援が不十分だった層への対応

- (1) 働き方の変化やライフイベント等に柔軟に対応できる体制の構築により、生涯を通じた継続的な健康支援を実施することが可能となる。
- (2) 被扶養者等既存の制度では対応が十分ではない層へのアプローチが可能となる。
- (3) 小規模事業場（自営業者等も含む）等へのアプローチが可能となり、労働者の健康保持増進が図られる。

PDCAサイクルに基づいた具体的な取組

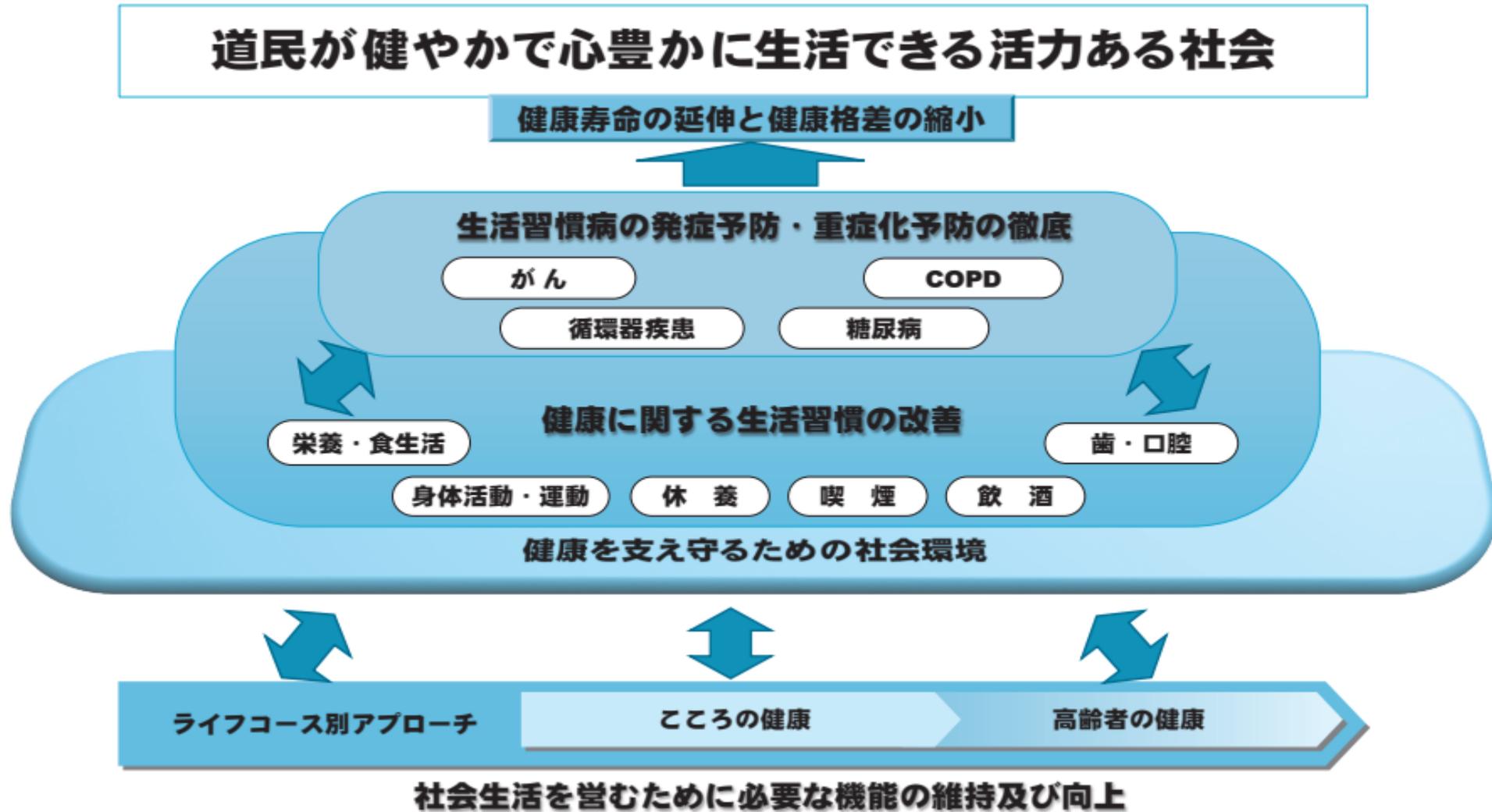
- | | |
|-----------------|----------------------|
| (1) 現状分析 | (4) 連携内容の決定及び提案 |
| (2) 課題の明確化・目標設定 | (5) 連携内容の具体化・実施計画の作成 |
| (3) 連携事業のリストアップ | (6) 連携事業の実施 |
| | (7) 効果指標並びに評価方法の設定 |

目指すところ

健康寿命の延伸や
生活の質の向上

生産性の向上

医療費の適正化



全道の健診結果を見ると、肥満や高血圧、高血糖、肝機能低下等ほとんどの項目で、道は全国と比較し該当者が多い。

二次医療圏ごとで見るとその中でも健康課題は様々であり圏域の課題に合わせた取組が必要である。

都道府県協議会・二次医療圏協議会の役割

都道府県協議会	二次医療圏協議会
<ul style="list-style-type: none"> ・地域保健・職域保健の広域的観点での連携により体制整備を図る。 ・都道府県における健康課題を明確化し、管内全体の目標、実施方針、連携推進方策等を協議することにより、管内の関係者による連携事業の計画・実施・評価の推進的役割を担う。 ・関係団体の連絡調整、教材や社会資源の共有を行う。 ・地域及び職域における保健事業担当者の資質向上を図るための研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より地域の特性を活かす観点から、地域特性に応じた協力体制による継続的な健康管理が可能となるよう体制を構築する。 ・これまでは、会議を実施することが目的となっている協議会が多くあったが、今後は具体的な取組の実施にまでつなげていくことを目的とする ・地域における関係機関への情報提供と連絡調整や健康に関する情報収集、ニーズ把握等を行い、<u>二次医療圏特有の健康課題を特定し、地域特性に応じた健康課題の解決に必要な連携事業の計画・実施・評価等</u>を行う。

十勝の働く人の健康づくり

十勝圏域健康づくり地域・職域連携推進連絡会

